

コロナと雨の2重苦 2年ぶり伊野いち開催



場内整理をする伊野小児童

13回目を迎えた伊野いちが6月18日、2年ぶりに旧J A美野店で開催された。コロナ対策に腐心し、宣伝も控えたが、230人余のお客様が買い物を楽しんだ。

また、初めての雨天開催となり、スタッフは売り場の変更など、対応に追われた。

小学生スタッフが商品の袋詰めを始めると、レジ前の混雑が解消するなど、小学生の役割はとても大きかった。

産直市に仏具店！？

今回の新規出店者は岩滝仏法堂、小村書店、株式会社なかたか（製麺）の3店。話題をさらったのは仏具販売。「伊野いちには意外なものがある」とお客様の間でささやかれていたが、めずらしい仏壇グッズに人だかりができた。

お客様からメッセージ

子どもたちも含めて地域の一体感があり、とてもすばらしいイベントだと感じました。

（多伎町住民）

子どもたちの対応がすばらしい。地元の方と子どもたち・学校の連携が上手にとれている。

（平田町住民）

ホタル観察 家族連れ五〇人超

金森町内のホタルロードで6月19日、2年ぶりにホタル観察会が開催され、ホタルが飛ぶ幻想的な風景を親子で楽しんだ。この日、ガイド役を務めたのは山田和彦さん（元松江南高校長）。「光る生きものはホタル以外にどんなものがある？」「ホタルは何のために光っているの？」「成虫になったホタルは何を食べているの？」など、子どもたちとの対話が盛り上がった。

幼子の手のひらで光るホタルを見ながら「私も子どもも初めて見ました！」と感動を口にしていた母親。子ども時代は原風景にホタルが残っていた。

枕草子の一節「夏は夜。：闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。また、ただ一つ二つなど、ほのかにうち光りて行くもをかし。」この情景を想像できる大人に育ってほしい。

（祥）